

# 高麗大学訪問記

看護学部 121047 神開彩乃

## 1、 授業について

高麗大学校で放射線学科の講義を受けさせてもらいました。講義室には各席にパソコンが置かれており設備は十分に整っていました。講義内容は診療放射線の内容で「放射線治療計画」というもので、スライドショーで図や映像を用いて行われました。放射線治療計画とは放射線治療をする前に照射範囲や線量、放射線を当てる方向など最も適した条件を決めることです。がん治療に使われるようです。照射部位に放射線を一点からあてるのではなく、さまざまな方向から線量の割合を考えて照射すべき部位に放射線を当てるように決めてシミュレートをします。また放射線の形を変えることで正常の細胞にはあてないようにすることもできるようでした。講義はすべて英語で行われており、高麗大学校の学生の皆さんは講義を真剣に聞き、メモを取っていました。英語でさまざまな医療の専門用語が飛び交い、私はわからないことだらけでした。同じ大学生であるのに、これだけの実力差があることに衝撃を受けました。しかし、高麗大学校の学生の方が丁寧な日本語で講義について細かく教えてくださったおかげで、講義内容について理解することができました。母国語ではないにも関わらず、英語を細部にわたるまで理解し、勤勉な姿勢で取り組む姿はとても感心しました。また、終わった後も韓国の人たちは頭もよく、英語力があるという印象が強くなりました。私は何事にも熱心に取り組む学生たちの姿を見て、その姿勢を見習わなければならないなと思いました。今後、本学に戻ったら韓国で学んだことを最大限に生かし学習に取り組んでいきたいと思いません。

## 2、 英語の重要性について

今回、自分にとって初めての海外であったので不安も感じましたが、現地の学生との交流や韓国の建物、文化、医療などを学べることができ、さまざまな人の助けを借りて充実した研修旅行となりました。はじめに私が韓国を訪れるにおいて最も不安であったのが言葉の壁でした。韓国の母国語は韓国語であり、その次に使われている言語が英語でした。私は韓国語を話すことができませんでした。また、英語も流暢に話せないのが不安でした。韓国に降り立ったときは、周りには韓国語が飛び交い、まるで違う世界に来たように感じました。しかし、高麗大学校などを案内してくれた学生のユンヨンスさんたちは日本語が話すことができ、会話をする時も日本語で話してくださったので、私は日本語でさまざまな韓国の文化について理解を深めることができました。高麗大学校の講義を受けさせてもらった際に、講義はすべて英語で行われていました。私は全く理

解できずにいましたが、高麗大学校の学生の方たちは内容をきちんと理解しメモを取っているようでした。また、高麗大学校の人たちとの交流で日本語を話せる方たちもいましたが、英語で会話する方たちもいました。難しい英語は使わなかったのですが、私はなんとなく理解することができましたが、英語のすべてを理解することができずにいました。私はしっかりコミュニケーションを取りたいと思ったのですが、どのような言葉を使えばよいのかをとっさ思いつくことができずに、伝えたいことがあっても、すべてを伝えることができませんでした。日本にいれば当たり前で伝えたいことを伝えることができる会話が、他の言語（この場合は英語）にすることで、言葉にしたいけど思ったように伝えることができずに、うまくコミュニケーションをとれないことがとてももどかしく、残念に感じました。私はこの時、英語ができることがどれだけ大切なのか、また、英語ができないことへの危機感を感じました。

英語は世界で最も多く使用されている言語であり、使用している国・地域は 80 以上、使用人口は 15 億人以上とされています。また社会、経済、文化など様々な分野で使用され、公用語として重要な立場を担っています。日本では英語の授業がありますが、それ以外で英語を使用する機会は少ないと思います。そのため高麗大学校の英語での講義には大きな衝撃を受けました。もしうまくコミュニケーションをとれるような英語力を身につけていれば、高麗大学校の学生の方たちとの異文化理解や交流をもっと深めることができ、今以上に良いコミュニケーションをとることができるのではないかと思います。高麗大学校の学生のユンさんは日本語を用いて韓国について細かく教えてくださり、私たちにとって最高の環境を用意してくださいました。ユンさんは日本に留学していたこともあるのか日本語は私たちと変わらないくらいの語彙力や理解力があり、説明が非常に分かりやすかったです。また、英語も同じで、ユンさんは英語を使う他国の方に道を尋ねられたとき、あわてずに英語で教えていました。そのとき英語でさまざまな会話をしているところを見ていて、英語を細かいところまで理解し、会話ができるようになれば、日本人だけでなく、英語を話すことができる国の人たちの手助けをすることができるのではないかと思います。言葉は情報伝達手段の一つです。言葉を見たり聞いたりすることでその人の考え方が容易に分かるようになります。言葉を理解できることだけで安心感を得ることができると思います。私たちは将来、看護師や診療放射線技師という医療従事者として社会で働いていきます。医療という一面で国も育った環境も違う人々の助けになるためには、英語を話せるようになり、うまくコミュニケーションに取り入れられることが大事だと思います。相手とコミュニケーションをとれるほどの英語力を身につければ、日本だけでなく海外でも活動できるかもしれません。自身の可能性が広がることもあると思います。私は韓国への訪問を通して自身の英語力が乏しいことを常に痛感し、英語の重要さに気が付きました。私は看護師になるために必要な学習をするだけでいいと思っていました。しかし、高麗大学校の学生の人たちの何事にたいしても熱心に勉強しようとする姿勢で講義を受けたり、自己学習を行っている

ました。その姿を見て、今までの学問への取り組み方ではだめだと思いました。専攻の学問でなくても、より多くの知識を取り入れることは大事だと思いました。高麗大学の学生の刺激を受けて、私は反省すべき点が多々ありました。看護師としての学習だけでなく、今後、英語の学習や他の学問においても積極的に取り組み、みにつけていきたいと思います。

韓国を訪れたことで文化、英語の大切さなど、さまざまな刺激を受け、他の文化の奥深さや面白さなどを学ぶことができました。一年生のうちにこのような研修旅行という素晴らしい機会に参加できたことで、今回学んだことをどのようにして本学で生かし、学習に立ち向かっていけばいいのかを考え直すことができました。また、自身がさらに大きく成長していくためにも、とても貴重な体験であったと思います。またこのような機会があれば積極的に参加し、異文化との交流を通して様々なことを学んでいきたいと思います。外国へ行くことで自身の視野が狭かったことがわかりました。いろんな見方で考えることができるようになるために意欲的に今後の学習や活動に取り組んでいきたいです。まだ外国へ行ったことない方にはぜひ体験してほしいと思います。韓国へ行く機会を与えてくださった先生方、ありがとうございました。